

第5回

古代インド

監修・講師
水島 司

学習のねらい

2千数百年前にインドで誕生した仏教は、その後、世界の三大宗教の一つとなるほど広まり、日本人の信仰にも大きな影響を与えてきた。今回は、仏教がどのような社会背景のもとで生まれ、どのような人々に支持されたのか、それがどのようにアジア地域に広まっていったのかを追い、またその後インドでは仏教がどのような運命をたどったのかを見ていく。

- ・ <仏教の成立> インダス文明 アーリヤ人 バラモン (司祭者)
- ・ ヴァルナ 輪廻思想 解脱 ガウタマ・シッダールタ ブッダ
- ・ マウリヤ朝 アショーカ王 ダルマ (真理、法)
- ・ <仏教の隆盛と伝播>
- ・ 上座部仏教 クシャーナ朝 大乘仏教 ガンダーラ
- ・ <仏教のインドでの消滅> ヒンドゥー教

■ ■ ■ 仏教の成立 ■ ■ ■

紀元前6世紀、ガンジス川流域ではいくつもの都市や王国が生まれた。社会的変化に直面して人々の世界観に大きな動揺が生じているなかで、**バラモン**と呼ばれる司祭階層は、厳格な儀式と苦行が救いを得る道だと唱え、それを執り行う自分たちが最高位にあると主張していた。こうした考え方に対し、**ブッダ**は苦悩からの救いの道の人々にも可能な形で教え、力をつけつつあった都市の商工業者を中心に、身分制の下で抑圧されていた人々の共感を得ていった。

ブッダの教えをインド各地に広げたのは、**マウリヤ朝のアショーカ王**だった。王は、諸国を征服してインド史上初の大帝國を築き上げたが、その過程で殺戮を繰り返したことを悔やみ、熱心な仏教徒となった。王は、武力ではなく、仏教の教えを基礎とする**ダルマ (真理・法)**の政治を目指し、その教えを刻んだ石碑を各地につくり、仏教を手厚く保護した。

■ ■ ■ 仏教の隆盛と伝播 ■ ■ ■

ブッダの死後、仏教の中には、出家して修行することによって自身の解脱を目指す**上座部仏教**と、出家者だけではなく在家信者も一緒に救おうとする**大乘仏教**という二つの主要な派が生まれた。仏教はインドからさらに外の世界へと広まっていったが、このうち上座部仏教は海を越えてスリランカから東南アジア各地に広まった。他方、大乘仏教は、中央アジアを経由する東西交易路の重要な地点であったインダス川上流の**ガンダーラ**地方を経由し、そこでギリシアの影響を受けて出現した仏像とともに中国や日本へと伝わった。

■ ■ ■ 仏教のインドでの消滅 ■ ■ ■

仏教は、アジア各地に広まる一方で、インドでは5世紀ごろから衰退しはじめた。要因の一つは、仏教の支持基盤であった都市の商人が、商工業の不振により、仏教僧の活動を支えられなくなったことであった。一方、仏教の隆盛で自己改革を迫られることになったバラモン教も、それまでの祭祀至上主義から、民衆の土俗的な世界観を取り入れ、巻き返しを図った。バラモン達は、民衆の信仰により近い**ヒンドゥー教**の担い手となり、支持を集めた。さらに、王権と結びつくことで仏教への攻撃を強め、仏教は影響力を失っていった。ついには、10世紀ごろ、イスラム勢力の侵入により、多くの仏像や寺院が破壊され、インドでは仏教が消滅した。

考えてみよう 調べてみよう

- 日本の寺院で祀られている像が、インドとどのように関係しているか、調べてみよう。
- インド各地に、どのような仏教、ヒンドゥー教、イスラーム教、キリスト教の聖地や遺跡があり、それぞれどのような背景をもつのか、調べてみよう。
- 現在のインドでは州ごとに公用語が異なるが、それぞれどのような言語でどのような文字を持つのか、どのようなグループに分けられるのか、調べてみよう。